謳う建築

ることを目指しています。 のこだわりも大切にし、作品の展示やアートとの出会い 十二月に開館しました。作家の思いと、その作品を収集する いる貴重なア WHAT MUSEUMは、寺田倉庫が作家やコレクター ト作品を公開する芸術文化発信施設とし からお預か の場を創出す て二〇二〇年 コ クター りして

名称を改め、 の先駆けである建築倉庫ミュージアムは、「建築倉庫プロジェクト」と 二〇一六年より建築模型の保管・展示を行ってきた「WHAT MUSEUM」 同施設内で建築にまつわる展覧会を開催しております。

二〇二一年五月三十日(日)まで開催された展覧会です。 オープニング企画のひとつとして二〇二〇年十二月十二日(土)から 企画展「謳う建築」は、建築倉庫プロジェクトによる WHAT MUSEUM

ぐ言葉から、 家が住宅建築を生み出す過程の模型やスケッチ・図面と、文芸家の紡 の建築を実際に体感し、書き下ろした言葉を展示いたしました。建築 本展 建築×文芸の新たな試みとして、十五名の多彩な詩人・文芸家がそ 一では、 住まい 住まう空間に対する眼差しを豊かにする機会となれば幸 と向き合う建築家が生み出した住宅建築をとりあ

みなさまに心より御礼を申し上げます。 本展覧会の開催に そして、多大なるご尽力をいただきました建築家・ しあたり、 ご支援ご協力を賜りました関係者みなさ 詩人・文芸家の

WHAT MUSEUM

建築倉庫プロジェクト

Foreword

WHAT MUSEUM opened in December 2020, to serve as a launchpad for the arts by showcasing the precious artworks that artists and collectors have entrusted to Warehouse TERRADA for safekeeping. Our exhibitions of these cherished works aim to share the intentions and the thoughts of the artists as well as the passions that continue to drive the collectors, and to create a locus for fresh encounters with art.

Note that the precursor to WHAT MUSEUM, the ARCHI-DEPOT Museum, which has been storing and exhibiting works related to architecture since 2016, has been renamed the ARCHI-DEPOT Project and will host exhibitions specializing in architecture in the same facility.

The exhibition "The Words for Architecture" was held from December 12, 2020 (Sat) to May 30, 2021 (Sun) as a blueprint for the ARCHI-DEPOT Project to commemorate the opening of WHAT MUSEUM.

This exhibition is an extraordinary collaboration between architecture and literature, which features residential buildings designed by architects who have explored the concept of dwelling, with a cast of 15 poets and writers who spun words upon experiencing those residences first-hand. We hope the models, sketches, and drawings conjured by the architects whilst designing a home, together with the passages woven by the writers, will present an opportunity to enrich the gaze with which we view our living spaces.

We would like to express our heartfelt gratitude to all the individuals involved in this exhibition for their support and assistance and the architects, poets, and writers for their tremendous efforts.

WHAT MUSEUM
ARCHI-DEPOT Project

02

「謳う建築」展覧会 会場写真

10

06

謳う建築

近藤以久恵(建築倉庫)

小譚詩 立原道造

17

ヒアシンスハウス 一 立原道造

塔の家 東孝光

20

樹洞の家

暁方ミセイ

歳月 蜂飼耳

24

湘南茅ヶ崎の家 吉村順三

無言の言葉 一 谷川俊太郎

28

谷川さんの住宅 一 篠原一男

光の背骨 玉川学園の家 一 岡本啓 田中敏溥

32

ひとつ 中村月子

36

東久留米の家 永田昌民

中 村邸 小池昌代

38

Cliff House / Cliff Hut 中村好文

97 80 68 64 60 56 52 42 93 88 46 On Emptiness 奥 露 昭 百億年の家 隔 黒 あ 地の 島の た 水晶の家 出 建築資料提供 出展者プロフィ V ŋ シャンティニケタンの住宅 西大井のあな 我孫子の家 黒水晶の家 展作品情報 しのいえ 縦露地の家 南が丘の 昭島の住宅 文 新しい住宅に寄すスタディ 花 の 長塚圭史 な S 山荘 \$ 四元康祐 高 ·協力 かり 貝 覚 ル Nilanjan Bandyopadhyay 三科尚也・三科明日香 和歌子 弘也 本真維子 $\hat{}$ 伊藤寛 堀部安嗣 高野保光 篠原明理 益子義弘 能作文徳 峯澤典子 モデルズ 佐藤研吾 • 常山未央

凡例

本図録内の図版解説は、以下の原則に従っている。

[建築情報]場所|竣工年 [建築資料]資料名(縮尺),制作年

作品掲載は建築作品の竣工年順に構成した。

作品データは原則として所蔵者から提供された資料に基づいている。 詳細および資料提供・撮影者等の情報は、巻末の「出展作品情報」 「建築資料提供・協力」「写真クレジット」に記載している。 カニエ・ナハ

身近な表現である言葉で謳おう。そんな思いが背景にあった。 たWHAT MUSEUMで、 より多くの 「謳ぅ建築」展は、WHAT MUSEUMのこけら落としの企画展示である。 人にアー トを届け、 人々にとって最も身近な建築である住宅を、 生活を豊かに、 と掲げてオープンし

らす年となった。そうした時勢の中で、人々が住まう空間 しを豊かにすることができたらと、 本展を開催した二〇二〇年は、世の中がコロナウイルスに見舞わ ステイホ ームが叫ばれ、人間がどう住まうかに対して意識を巡 企画した展示である。 へ の 服差

建築に宿る本質とは何であろう。

れてい そうしたも 本質のひとつではないか。 の住まう精神、空間が呼び起とす身体性、 素晴らし る。 のがひとつの空気感となり、 い住宅建築を体感した時に感じるあの空気感が、建築の 建築家の建築に 住宅という器がつくりださ 住まいが内包する時間、 対する精神と、住まい手

ある。 そうした住宅建築を、詩人・文芸家が、謳い浮かび上がらせる試みで 「謳う建築」は、 住まいと向き合い続けてきた建築家が が生み出 L た

け、 建築を住居建築、 詩人であり建築家の立原道造は、「住宅・エ 住居建築に つ 公共建築或い いて、次のように記述している。 は記念碑建築、 ッ セイ」 産業建築の三つ の随想の中で、 K

精神は、 て、エッセイと住宅は次のやうに触れあつてゐると考へられは しないか。 『人生』をひとつの中空のボ 中空のボ 住宅する精神は、 ル の内部 ボ の 凹状空間の ルと考へよう。 ル の表面を包み、 表面を包まうとする そ の エ ボ ッ イする ル に就

葉を同る ととが 宅 できる 時 とエ ĸ 作 ッ 動 セ z イ せ . の て創作活 本質する精神は 動に挑み ___ 続 致し け た て 立原 V いるのだ の 姿をそこ ځ 建築と K み 言

詩人 詩人 た建築と言葉の n もなく うことへ 期待をした。そして、 で 10 の • は 回 これから住む詩人、或いは、 宅建築を体感した時のような感覚が浮かび上がっ それ 文芸家で 「の「謳 か。また、こ 建築家でも な の豊か V ぞれ • ら建築」で新たに言葉を紡ぐのは、 建築家が建てた住宅に住まう詩 の住 な感性を呼び覚まし 創作領域の広がりや、 ある。紡がれた言葉には、 な の試みから、立原が自身の人生を通 まら精神が い、第三者の詩人がすくい上げる言葉が 詩人や文芸家が謳った言葉は、 か含まれ 初めてその住宅を訪れ体 てく 新たな視点が見えてくること てい れる 住まい手、 る 人、か であろう。 であろう。 住宅を設計 つて住ん 建築家、 私達に、 住ま てくる て体 L 器 感 S 或 で た :現し 手で の ع S L 5 建 な た で

築模型 住宅 有様を伝 り上げる過程に 築資料とを収めた展覧会図録である。 ŋ L 本 載 下ろした た 書 の や図面 設計 は、 じた。 V て ٤ える S 「謳う建築」展にあたり創作された言葉と、 年 V ただきた とれ に映像は、 いう思い 代順とし b b 掲載 おける身体性を感じることが のである。 ら建築資料の断片とともに、 N され か 詩人が訪れた際の二〇二〇年現在 5 て V てお 30 作品の掲載順序は、 本書では、 9 創 そうし 作された詩作品・ その映像 建築に蓄積された時間を大切 た資 料 できる。 の 詩作の対象とされ 言葉を謳 か 一部を静 らは、 セ リフの 展示され 展示に際 建築を の住ま S 止 rs 画と 建 か 築を た V L つ 0) て た

芸家 ょ り感謝申 最後 建築家の方、 K になり 上げます。 ましたが、 お力 添 ح え賜りま の試みにご参画い した全 て の ただきまし 御 関 係 者 た詩 の 皆様 人 K 文 र्ग ५

近藤以久恵

In "The Words for Architecture," it is not the architects who penned words to their designs. It is the poet who currently resides there, the poet who resided there in the past, the poet who will be a future resident, and the poets and writers upon experiencing the housing for the first time. The passages woven will synthesize the resident, architect, and poet's interpretation of the concept of housing. Perhaps the emotions and ambiance one feels when experiencing a housing will arise from the vessel created by the words of an impartial third party who is neither a resident nor the architect. We hoped to expand the creative field of architecture and literature that Tachihara had embodied through his own life whilst revealing new perspectives. The passages woven by the poets and writers will awaken our senses to many facets of the concept of living.

This book is a catalog of original passages written for "The Words for Architecture" and the architectural materials displayed during the exhibition. The homes are listed in chronological order by the design completion, respectfully to the architectural endurance of time. In addition to the poems and dialogues, there are also architectural models and drawings; through these materials, we can feel the physicality of the process of creating architecture. The video footage for this exhibition was filmed in 2020, showing the state of the housings upon the poets' first visit. Through the manifestation of architectural materials and words, we hope readers will be able to experience the architecture.

In closing, I would like to express my heartfelt gratitude to the poets, literary artists, and architects who kindly participated in this project and all the people involved for their cooperation.

Ikue Kondo

The Words for Architecture

"The Words for Architecture" is the inaugural exhibition to mark the opening of WHAT MUSEUM. WHAT MUSEUM opened to bring art and enrich the lives of a broad audience, and we aimed to bespeak the most intimate form of architecture, a housing, with the most common form of linguistics, words. In the year 2020, when this exhibition took place, the world was struck by the pandemic, stay-at-home orders were issued, and we became more conscious of how we live. This exhibition aims to enrich the gaze in which we view our living spaces during these trying times.

What is the essence that resides in architecture?

One of the essences of architecture is feeling the ambiance within the walls of a remarkable residential building. The architects' energy embedded in their creation, the energy of the dweller, physicality evoked by the space, time encompassed within the walls - all come together to create an ambiance that makes a home a vessel.

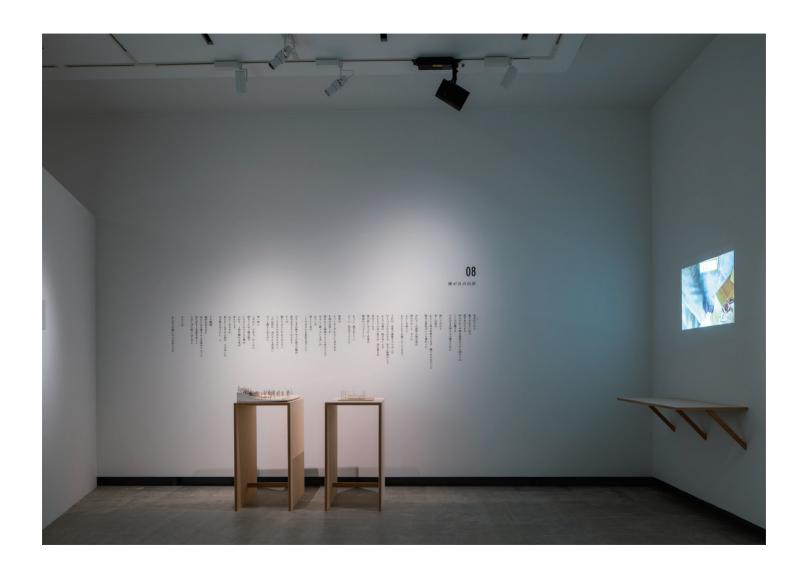
In "The Words for Architecture," the architects' pursuit of living is immured in their designs, as poets and writers breathe life into each residence by way of words.

In "Jūtaku—essei · Housing — An Essay," poet and architect Michizo Tachihara divided architecture into three categories, housing, public buildings or monuments, industrial architecture, and describes a housing as below.

Let us observe "Life (Das Leben)" to a hollow ball. The mind that resides in this housing wraps around the outer surface of the ball, while the mind that writes this essay is enveloped by the hollow ball's interior concave surface.

He suggests that the essential spirit of a housing and the essay are the same. Through his words, we can see the unwavering challenge of Tachihara as he used both architecture and literature as a catalyst in his creative process.











中村月子

もう少しだけ日の出を遅らせようもう少しだけ眠りについてはどう

その日の月に任せ騒つく夜はこの場所で

その日の月を見忘れたっていいよ優しい夜はこの場所で

知らせる時風に揺れ今日のリズムを壁一面の絵となり

深く深呼吸する時今日の始まりを喜び光に溢れた空間が

きっと 想った 誰のものでもない様

いるんでしょう繋がるあなた気付いて

受け入れ合う時の中で鳴り止まない時の中で

音が鳴る

K

耳を

澄ましてて

36



東久留米の家 Higashikurume House

永田昌民 Masahito Nagata

東京都東久留米市 | 2003 Higashikurume, Tokyo | 2003

建築家・永田昌民が自邸として設計した「東久留米の家」。2020年10月、作詞家・作曲家・シンガーの中村月子が複数回に渡り訪れ、一曲の歌「ひとつ」が生まれた。



展覧会

本書は下記展覧会の図録である。

謳う建築

2020年12月12日(土) ~ 2021年5月30日(日) WHAT MUSFUM 展示室1階

主催:寺田倉庫株式会社 企画:建築倉庫

企画構成:近藤以久恵(建築倉庫)

企画運営:近藤美智子、松井晶子(建築倉庫)

企画協力: カニエ・ナハ 会場デザイン: 関川 航平

映像制作: 広瀬 奈々子、瀬尾 憲司 什器デザイン: 甲斐 貴大 (studio arché)

翻訳: ジョーダン・A.Y.・スミス 広報: 古後 友梨 (建築倉庫)

グラフィック: 株式会社 TETE BRANDING

施工:株式会社東京スタデオ

図録

謳う建築

2022年1月31日発行

発行: 寺田倉庫株式会社 WHAT MUSEUM 編集: 沂藤 以久恵、沂藤 美智子(建築倉庫)

デザイン: 加藤 弾 (gaimgraphics) 翻訳: ジョーダン・A.Y.・スミス、中根 紗紀

印刷・製本:株式会社ハナミ





令和3年度文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業© 2022 WHAT MUSEUM. All Rights Reserved.

写真クレジット

[展示会場写真]

P10-14

◎ 瀬尾 憲司

[建築写真]

P22-23, 29-31, 34, 50, 54

◎ 瀬尾 憲司

P26, 37, 40, 44, 58, 61, 86

© ディレクター 広瀬 奈々子、 撮影 井上 裕太

P65

© In-Field Studio

P79

◎甲田 和久

[模型写真]

P62

© Ivan Bonev

P66

© In-Field Studio

P62,66 以外全て © 瀬尾 憲司 建築資料提供・協力 ※掲載順

立原 道造 立原道造記念会

軽井沢高原文庫

東孝光 東環境・建築研究所

吉村 順三 熊澤 茂吉

篠原 一男 遠山 正道

田中 敏溥 田中敏溥建築設計事務所

棚橋 一/ 棚橋 真貴子

永田 昌民 永田 佑子

中村 好文 レミングハウス

伊藤 寛 伊藤寛アトリエ

益子 義弘 益子アトリエ

堀部 安嗣 堀部安嗣建築設計事務所

荒井 清児

高野 保光 遊空間設計室

能作 文徳 能作文徳建築設計事務所

常山 未央 studio mnm

佐藤 研吾 In-Field Studio

篠原 明理 篠原明理建築設計事務所 / office m-sa

齋藤 和文/齋藤 綾子

三科 尚也 madang

三科 明日香

97